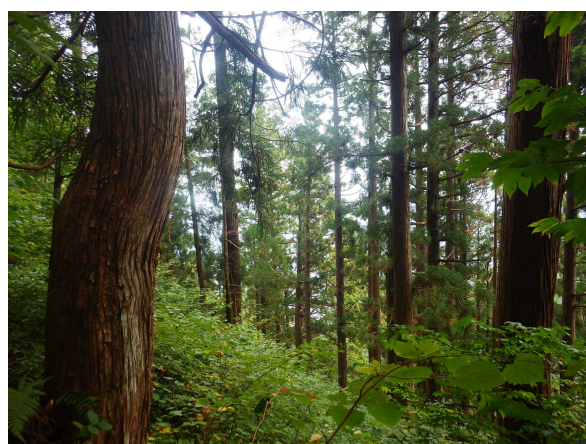


イボラスギ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局岐阜森林管理署
所在地	岐阜県郡上市
面積	9.34ha
設定年	平成元年4月1日（平成29年4月1日 変更）
保護林の概要 （設定目的）	井洞国有林に群生する伏条性の強いイボラスギ等で構成される天然林は貴重である。このイボラスギ個体群の保護・管理を図る。



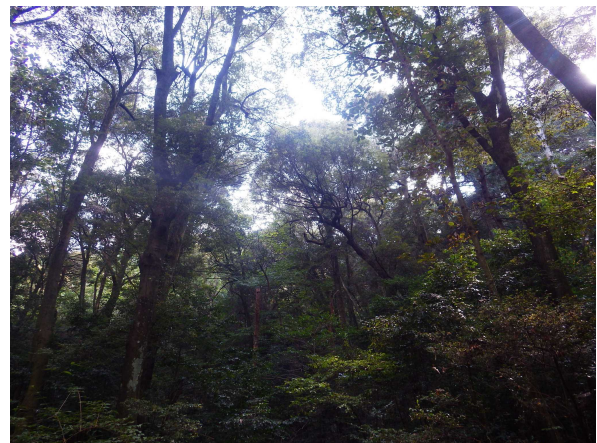
モニタリング調査の概要

実施年度	令和元年度
調査項目	樹木・林床植生の生育状況調査
調査手法	スギ群落に設定された調査プロットにおいて、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	保護対象種であるスギ大径木の群落が維持されていることが確認され、スギの稚樹や実生の数も多いことから保護林の健全性は維持されていると判断された。現状では植生への影響は顕在化していないものの、ニホンジカと推定される糞が確認されたことから、今後の動向には注意を払う必要がある。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

金華山アラカシ・ツブラジイ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局岐阜森林管理署
所在地	岐阜県岐阜市
面積	10.81ha
設定年	平成元年4月1日（平成29年4月1日 変更）
保護林の概要 （設定目的）	金華山国有林に群生しているアラカシ、ツブラジイ等で構成される天然林は、都市近郊林として貴重である。このアラカシ個体群とツブラジイ個体群の保護・管理を図る。



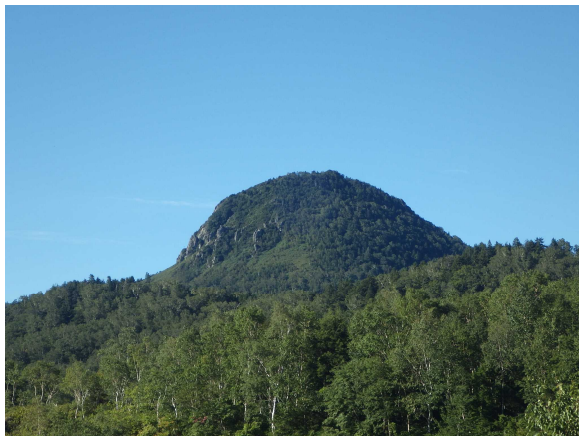
モニタリング調査の概要

実施年度	令和元年度
調査項目	樹木・林床植生の生育状況調査
調査手法	アラカシ・ツブラジイの生育する群落に設定された調査プロットにおいて、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	ツブラジイの優占する群落が確認され、小径木及び実生も多数確認された。アラカシは、プロット内に成立する立木本数は少ないものの、中部森林管理局が2010年に実施した調査では、尾根上にはアラカシ中心の群落が確認されている。これらのことから、保護林の健全性は維持されていると判断された。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

笠ヶ岳希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局北信森林管理署
所在地	長野県下高井郡山ノ内町
面積	180.12ha
設定年	平成2年4月1日（平成29年4月1日 変更）
保護林の概要 （設定目的）	志賀高原の笠ヶ岳(2,076m)は上信火山帯に位置する独立峰で、オオシラビソ、シラビソ、カンバ等から構成される原生的な天然林となっていることから、その森林の保護・管理を図る。



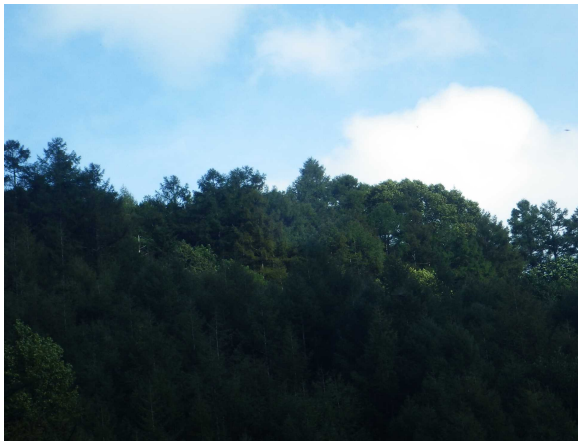
モニタリング調査の概要

実施年度	令和元年度
調査項目	森林の踏査調査
調査手法	保護林内を踏査し、樹木・下層植生の生育状況や病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況を把握。
結果概要	気象害等は見られなかったことから、保護林の健全性は維持されていると判断された。保護林境界の豊野南志賀公園線沿線では、フランスギク等の外来種が多数確認されており、一部ではまとまった群落が形成されていた。現在のところ保護林内部への侵入は確認されていないものの、注意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

笠山クロベ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局北信森林管理署
所在地	長野県長野市戸隠
面積	4.29ha
設定年	平成2年4月1日（平成29年4月1日 変更）
保護林の概要 （設定目的）	クロベを主体とする天然林は、ウラジロモミ、カンバ類が混交しているものの非常に珍しく、学術的に貴重であることから、この個体群に保護・管理を図る。



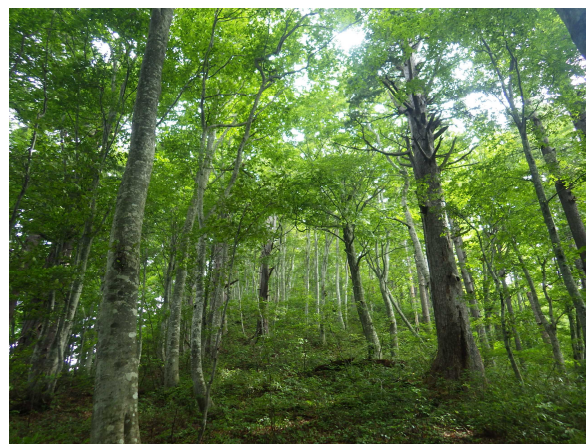
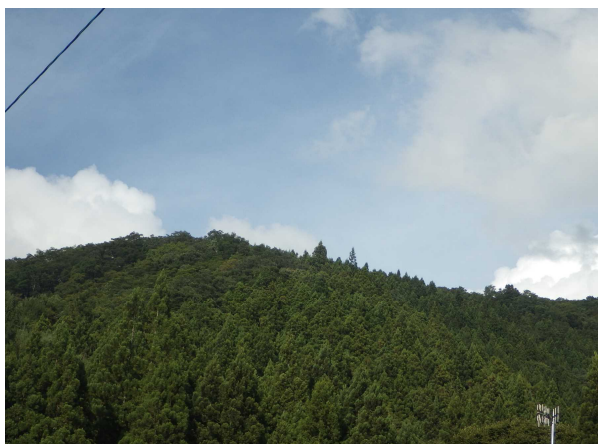
モニタリング調査の概要

実施年度	令和元年度
調査項目	樹木・林床植生の生育状況調査
調査手法	クロベ群落に設定された調査プロットにおいて、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	クロベ中心の群落が維持されており、保護林の健全性が維持されていると判断された。ただし、クロベの小径木及び稚樹が少なく、ウラジロモミの小径木が増加傾向にあった。調査プロットはウラジロモミの優占する林分と近接しており、土壌の発達に伴いウラジロモミ等の優占する群落に遷移していく可能性がある。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

小菅山ヒメコマツ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局北信森林管理署
所在地	長野県飯山市
面積	21.04ha
設定年	平成2年4月1日（平成29年4月1日 変更）
保護林の概要 （設定目的）	岩石地帯に通常単木的に自生するヒメコマツがまとまった群落として見られることは希少であることから、ヒメコマツ個体群の保護・管理を図る。



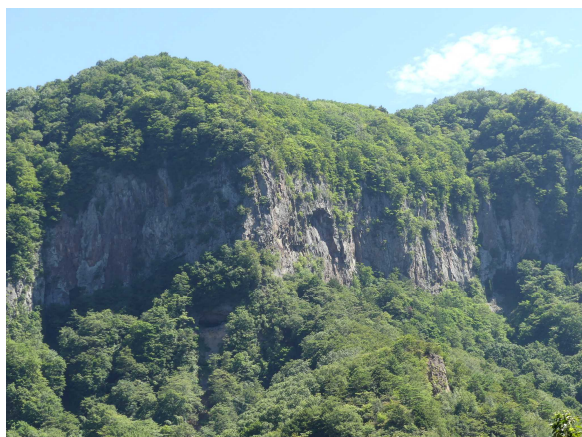
モニタリング調査の概要

実施年度	令和元年度
調査項目	樹木・林床植生の生育状況調査
調査手法	ヒメコマツ群落に設定された調査プロットにおいて、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	ヒメコマツの群落が維持されており、保護林の健全性は維持されていると判断された。ただし、ヒメコマツの生長した稚樹は確認されず、後継樹が定着しているとは現時点では判断できない。現在の保護林の環境はヒメコマツの更新には適していないと考えられる。ブナは更新が進んでおり、今後はヒメコマツ群落が衰退しつつブナ主体の群落に遷移していくものと思われる。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

米子希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局北信森林管理署
所在地	長野県須坂市
面積	1,153.02ha
設定年	平成2年4月1日（平成29年4月1日 変更）
保護林の概要 （設定目的）	大型の希少鳥類の生息が確認されていることから、その生息に必要な森林を保護・管理する。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和元年度
調査項目	聞き取り調査、写真撮影
調査手法	保護林における野生鳥獣の保護管理や管理体制、普及・啓発活動の実施状況を把握。大型の希少鳥類の生息状況の確認。
結果概要	保護林には現在大型の希少鳥類の生息が現在確認されていない。しかし、大型の希少鳥類の生息地として良好な環境が残されていることから、今後も保護林における生息状況をモニタリングし、大型の希少鳥類の定着・繁殖が確認された場合には保護対策を実施する必要がある

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。